

徳島大学病院地域  
産婦人科特任教授



古本 博孝

**答え** 子宮頸がんはHPVウイルス(HPV)の感染が原因で発生します。頸がんの細胞検査では見落としが10%ありますが、HPV検査を併用すると見落としがほとんどなくなるため、頸がん検査には、細胞検査とHPVの併用検査を勧めています。徳島県では、検診時に希望すれば自己負担で検査できます。ただ、20代ではHPVの感染率



**質問** 27歳の未婚女性です。子宮頸がんの検診を受け、HPVウイルスに感染していると分かりました。医療機関での受診を勧められ、ある病院を受診し、3回の検査を受けました。1、2回目の検査では特に異常は指摘されなかったのですが、3回目の検査で、医師から「子宮頸がんの前がん症状で、異形成の状態にある」との説明がありました。今後は月1回、検査を受けるようにと言われていますが、検査だけで、治療はしなくても大丈夫なのでしょうか。

## HPV感染 異形成の治療法は？

# 段階に応じて観察・切除

HPVは性行為によって感染しますが、人類に広くまん延しており、25〜30歳の女性では20%が感染しています。ある時点で20%が感染しているということは、長期間追跡すると、ほとんどの方が一生に数回は感染するということだと考えられています。ほとんどは自然に消失するので、HPVに感染していることはあまり大きな問題ではありません。HPVが消失するまで6カ月ごとにしっかり検診すれば良いのです。

しかし、数は少ないですが、HPVが消失せず、持続感染に移行する方がおられます。この場合は、頸がんの発生する確率が高くなるので注意が必要です。ご質問の方はHPVが消失

が高く、そのほとんどは消失するので、米国では30歳以上での併用検査を勧められています。ご質問の方は、最初の細胞検査では異常がありませんでしたが、HPV検査が陽性だったのですね。HPVは性行為によって感染しますが、人類に広くまん延しており、25〜30歳の女性では20%が感染しています。ある時点で20%が感染しているということは、長期間追跡すると、ほとんどの方が一生に数回は感染するということだと考えられています。ほとんどは自然に消失するので、HPVに感染していることはあまり大きな問題ではありません。HPVが消失するまで6カ月ごとにしっかり検診すれば良いのです。

### 異形成の治療

レーザー蒸散	レーザーで病巣を蒸発させる方法。診断の確認ができないので、病巣が可視領域にある中等度異形成までが対象
LEEP切除	病巣を電気メスでくり抜く方法。診断の確認が可能。病巣が可視領域にあり面積が狭い上皮内がんまでが対象
LEEP切除+レーザー蒸散	LEEP切除とレーザー蒸散を組み合わせた方法。診断の確認が可能。病巣が可視領域にある上皮内がんまでが対象
円錐切除	子宮の下部を切除する方法。診断の確認ができて安全。上皮内がんまでが対象
光線力学的治療	注射とレーザーで治療する方法。上皮内がんまでが対象。子宮は無傷で温存できるが、3週間薄暗い部屋に入院し、6カ月は直射日光を避ける必要がある
単純子宮全摘出術	子宮を摘出する方法。浅い浸潤がんまでが対象。閉経後の場合などに行う

せず、前がん状態である異形成の状態になりました。異形成には軽度、中等度、高度の三つの段階があります。50%は自然に治りますが、一部は平均5年で上皮内がんへ進行します。上皮内がんはおとなしく、転移したり浸潤したりしません。妊娠中に発見された場合は、分娩まで治療を待つことが可能です。しかし、放置した場合は平均5年で浸潤がんになり、浸潤がんになれば生命の危険があります。軽度異形成は、可逆的な病変と考えられており、通常は経過観察します。1年から1年半以内、経過観察も可能です。上治らない場合は治療してもよいし、経過観察を続けてもかまいません。米国では、悪性度の高いHPV16、18、31、33、35、45、52、58型が陽性の場合には3カ月ごと、そうでなければ12カ月ごとの検診を勧められています。当科ではいずれも4カ月ごとに検診しています。中等度異形成は、当科のデータでは50%くらいは自然に治るので、経過観察することが多いですが、1年から1年半以上治らない場合は治療しています。悪性度の高いHPV型が陽性の場合、最初から治療してもよいし、経過観察も可能です。

高度異形成は、自然に治ることもありますが、通常は経過観察しないで治療します。なお、異形成の主な治療について、その内容を〈別表〉に示しておきます。ご質問の方は経過観察を指示されているので、軽度異形成か中等度異形成であったのでしよう。20代の若い方は自然に治ることが多く、円錐切除以上の治療をすると子宮が変形して、将来の妊娠に悪影響があるので、もう少し様子を見て良いと思います。治療する場合は、可能ならLEEP切除プラスレーザー蒸散が良いでしょう。HPVの型をみるのも参考になります。また現在は、HPVを予防するワクチンがあります。異形成があったり、HPV感染があったり、HPV感染がなくてもかまいませんので、ぜひ接種することをお勧めします。

**質問募集** がんに関する悩みに「徳島がん対策センター」がお答えします。質問内容を詳しく書き、住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記し、〒770-8572 徳島新聞社文化部「がん相談」係へ。紙上に住所、氏名、電話番号は掲載しません。同センター(☎088(633)9438)でも平日午前8時半〜午後5時に受け付けています。